

1. 出入国審査の迅速化の促進策について

入国審査の迅速化と接遇向上について、引き続き取り組み強化の要請とあわせて、自動化ゲートの拡充及び事前登録の簡素化や周知、拡充に努められたい。空港セキュリティ検査に関しては、日本出国時には航空機内でのテロを未然に防ぐ砦として、ボディー・スキャナーの導入等によるハード面の強化に取り組まれているが、国内線の出発時においても警備の強化を図るなど、検査の実効性を高める取り組みに努められたい。

【回答】 入国管理局総務課

出入国審査の迅速化の点ですが、この迅速化、「円滑化」とも呼んでいます、そういったことは非常に重要だと考えており、政府の目標としても、2020年に4000万人という訪日外国人旅行者受入れに向けまして、私どもとしても取り組みをどんどん進めなければいけないと考えている。

最近の取り組みとしては、増員で入国審査を行う職員をふやすということも当然行っているが、最近ではバイオカート、主要な空港に入れている機械ですけれども、今は外国人が空港に到着されると、上陸審査の際に、顔写真と指紋情報、両手の人差し指が原則ですが、採らせていただいている。審査を待っているお客様、審査上でお待ちになっている間に、あらかじめ採ることより、外国人が入国審査官の審査が目の前にやってきたときには、そのプロセスは終わっている形にして、審査を迅速化という取り組みを進めている。

まさに、ことしの3月にこのご要請書をいただいた後、4月中旬から成田空港を初めとする空港でバイオカートを12空港で運用開始したところである。

先立ちまして、昨年10月からは関西空港、那覇空港、高松空港という3つの空港で審査待ち時間の間に顔写真と指紋をあらかじめ採るバイオカートの運用はその時点から始まっていたが、非常に効果があったということもあり、その取り組みを進めるという観点で、それ以外の12空港、成田空港、中部空港、千歳苫小牧空港、その他、地方空港でも導入しており、運用を始めることにより、迅速化にも努めていきたい。

それが主な迅速化の今の支援の取り組みということになるが、あと接遇の向上という部分は私ども重要と考えており、外国人のお客様が日本に到着されて一番最初に会う日本人であるということをお我々も思っており、そうであればなおのこと、上陸審査のところで持たれるイメージが少しでもいいものであったほうがいいと私どもも考えている。

そこで、当然職に対する研修などもしっかりやっております、例えば新規採用者向けの研修も行っており、接遇関係のコマもきちんと設けて研修なども行っている。速やかな審査、それから接遇という意味でも、私どもも一生懸命やっていきたいと思っている。また、こういった審査の円滑化・迅速化、あるいはお客様の流れがスムーズであるということは、それそのものが接遇の向上にもつながると考えているので、そういった形で進めていきたいと考えている。

まず現在、自動化ゲートというものが設置はされているが、事前の登録をさせていただくことになっており、システム上、旅券と指紋情報は登録していただかないと、本人確認ができないということで、やむを得ずシステム上、どうしても事前登録が必要ですが、まず登録事務そのものはそんなに手間はかからない。皆さん既に登録されている方がいらっしゃるかもしれませんが、簡単な申込書を書いていただいて、空港でもすぐに手続きができるので、5分ぐらいあればお手続きいただけるので、周知にも努めている。

ホームページなどの一般的な周知だけでなく、パスポートセンターで、日本人の方が日本の旅券をつくるにパスポートセンターに来られた際に、併せて自動化ゲートの登録をしませんかということで、出張登録というイベントもあり、登録そのものはあるものですから、少しでも利用していただく方をふやすという意味で周知方々、出張登録で少しでもご利用していただけるように努力している。

そもそも事前登録がなければ、さらに使い勝手がよくなるということはよく認識しており、日本人の方の出帰国手続については、事前登録なしで自動化ゲートを使っていただけるようにできないか検討準備をしている。具体的には、今までは指紋の登録が主として必要だった観点で、事前登録をしていたが、顔認証の技術を使うことにより、事前登録なしでお使いいただけるようにしたいと考えている。

日本人向けのパスポートには IC チップのページがあって、顔写真の情報が IC の中に入っていますので、IC チップ内の顔写真の情報と目の前に実際にパスポートを持ってこられた方の顔・画像を照合することにより、同一人性をきちんと確認するというやり方で、日本人の出帰国手続を自動化する。そうすると、事前の登録なしで自動化ゲートを通っていただけることになるので、そういう取り組みを進めようとしている。

スケジュールとしては、顔認証というのは、相当技術は進んできているが、若干、課題もあると思っており、今年度、試験器を入れ実験しながら万全の機器の開発をしたいと考えている。今年度中には、一部の空港に限って、台数も限って試験的に始めて、必要な改修等も行いながら、来年度以降になるが、それを広げていきたいと考えている。

職員をふやすだけでなく、機械化、合理化等もしながら、より円滑で迅速な手続

を進めていきたいと考えている。

他方、私ども円滑・迅速は非常に重要だと思いますが、水際対策も非常に重要で、円滑・迅速を進めたがゆえに水際対策が疎かになったとか、テロリストが入りましたということは決してあってはならないので、よくバランスをとりながら、進めていきたいと考えている。

【質疑・応答】

【意見】

入国審査の迅速化に向けてと接遇向上ということで、システムをさらに簡素化するという観点と教育の観点ということで取り組みがされているということで、まずは理解を深めさせていただきました。

法務省さんに言うことではないかもしれませんが、空港周りを見ていますと、最近セキュリティの保安審査員の方々の人材が不足しているという実態を聞きまして、実は労務環境がいろいろ窮しているということで、なかなか長く働き続けることができない環境が一部理由としてあるようで、これは、要は賃金そのものの課題があるということです。しかしながら、その取り組みをするのは、外部委託をして、日系と外資系の各航空会社さんの協議の上で賃金が決まっているということですので、ここでお伝えすることではないかもしれませんが、人を別にふやさないという理由にはならないと思うんですけれども、システムを するのには人ありきだと思いますので、全体的に入国審査でセキュリティ検査のときには、人の活用が必要だと思っております。これは要望というか一意見でございますので、お受け止めだけいただければと思います。

あと水際対策のお話をいただきました。昨年春ですか、空港で成田と中部でダイバート絡みで台湾の方がそのまま CIQ を通らず日本国内に入られたというケースがありました。ああいったことが二度とないようにするためには、お答えいただいたような水際対策を手厚くしていただくのが第一義だとは思いますが、ここは航空局さんとか民間の各航空会社さんとのやりとりも必要なのかなと思いますが、そこも連携しながら引き続き取り組みを深めていただければと思いますので、よろしくお願ひします。

【要望】

たまたま海外に行き、5月の連休中でしたが、今は日本も観光立国ということで、インバウンドの増加に力を入れています、帰国して入管審査に来たとき、外国人向けのゲートは結構うまく回っていた。その時間帯や到着便の数にもよりますが、逆に日本人のゲートがほとんどあいていない。日本人だけが列をなして並ん

でいる状況がありましたので、ケース・バイ・ケースだろうと思いますが、今のことと同様、日本人も少し大事にしてもらえればありがたいかなと思いますので、これも要望でありますけれども、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

【要望】

3月ですか、港湾法の一部改正によってクルーズ船の受入れ拠点というのが国土交通省のほうで閣議決定されたということで、確かに今までクルーズ船が着くに当たってはSOLAS対応のところを中心にやられたと思いますが、例えば新しく拠点港になったところの入国審査体制のハードの部分といいますか、今までは港で、例えば既存の貨物を扱う港で着けるところがなくてやっていたということで、入国審査の問題だけではなくて、手続上とか体制の問題とか、逆に外国人のお客様に迷惑がかかるとか、イメージ的にきちんとされていなかったもので、今度は改正されてターミナルとか運営もされますが、その中で、ターミナルの中に入ってそこに拠点を持ってきちんとやられるのはいいことなので、だんだん予想以上にクルーズ船が多くなって対応が大変だということもわかりますが、そこら辺をきちんとやるということで、例えばSOLASではきちんと国際条約で決まっているので、その辺のさらなる改善をして、よりいい運営をしていただければと思います。

2. 保安検査の迅速化と接遇向上について

- (1) 日本発着の外国船クルーズでは、カボタージュ規制のため必ず外国の都市に寄港する事になるため、外国出港後に寄港する日本の港では、入国手続きに加え税関申告書を提出する事になる。ここが最終下船地でない場合は、荷物を税関チェックすることなく、形式上に申告書を提出だけして、実際の通関は最終下船地で行われる事になり、その際にも申告書が必要となり、利用者が苦慮している。クルーズ船税関手続きの柔軟な対応を講じられたい。
- (2) 地方港においては、出国手続きの際わざわざ乗船者全員を船外に出させ、屋外に長時間待機させ利用者が待たされるケースが発生している。パスポート原本は船に預けられており、形式上の手続きなのは明白である。日本発着クルーズ利用者の増加に向けクルーズ船出入国手続の柔軟な対応を講じられたい。

【回答】

ご指摘いただいた観点からご説明いたしますと、クルーズ船の対応で拠点港が整備されていくという流れにございますので、その辺は国土交通省の港湾局とも随時お話しさせていただいており、私どもは、整った環境の中で審査させていただいたほうが、お客様にとっても負担は少ないわけですし、私どもにとっても、より適切・的確な審査ができることは間違いのないと思いますので、そこはぜひ私どもも

お願いしていきたいと思っている。

例えば博多港はクルーズターミナルもつくられており、長崎の「松が枝埠頭」のようなターミナルをつくっていただくことが大事だと考える。

港湾法の改正によって新たに船会社で整備されていくという流れになったとしても、そこは、きちんと設備をつくるに当たって必要なものをお願いしていくという形で考えており、既に港湾局ともそういう形で進めさせてほしいということをお願いしている。

具体的な話が何かできているわけではないのですが、そういった観点で施設整備をしていただく必要性というものは港湾局には少なくともご認識いただいていると思っているので、今後、法案が通った後の具体的な話の中で詳細は詰めていくことになるかと思うが、私どもとしては、きちんとそういったものを整備してほしいと主張してまいりたい。

【質疑・応答】

【質問】

2番に入ってしまいますが、今クルーズが出たものですから、勉強不足ですが、寄港地での一時上陸の入国審査はどういう扱いになりますか。海外クルーズの場合。

【回答】

クルーズ船の場合は、現在は一般的には船舶観光上陸許可という特別な許可の手続きをとっており、これは一定の条件のもとで、全ての船が該当するというわけではないのですが、実際に日本に入ってくるクルーズ船のほとんどは、船舶観光上陸許可という手続きの対象となっている。

実際にその審査は、通常どおり審査しますが、顔写真の撮影などを行っておらず、一般の空港での一人当たりの審査よりは簡略化した形をとっておりますし、旅券についても、船側のほうで基本的には管理をいただいていますので、例えば、私どもの審査の際には、当然審査のブースを通過していただくんですけども、その際に旅券は写しを持ってきていただくだけでいいことにしている。

そういった意味では、船側のほうで管理されているパスポートを日本に上陸するために一旦、船側が皆さんに還付して来ていただくということは一切やらずに、写しを持ってきていただくということで非常に簡略化している。

【質問】

複数国を回ったときに、出入国する際にはそのカードを出してというので、あとは多少軽いものを持って訪問地に入れるということをやっている。

【回答】

そういう意味では簡略化しているということでございます。一度にたくさんのお客様が降りてこられるということもございまして、そこは十分配慮したいと私どもは思っておりますし、クルーズ船のお客様、通常は朝、港に入られて、日中は観光されて夕方には出て行かれてしまいますので、少しでも私どもとしても観光していただく時間を長くとっていただくほうがいいと思っておりますので、そういった形で可能な範囲で簡素化して、速やかに上陸手続を終えていただくということに留意しているというところでございます。

【質問】

何であえて聞いたかという、今クルーズ船の受入れは結構、誘致されているようなんですけれども、日本のクルーズ船対応港が数少ないようですし、そういう意味で地方港を含めて、貨物港を当座の策としてクルーズ受入れ港にやられているように聞いています。この間、沖縄にも現地に行ってきたんですが、本来、旅客が入ってこない港に着くものですから、いろいろな面で、外国人旅行者の方にご不便かけている面があるように聞いていましたので、そういう意味で今のよう形でできるだけ簡略化されているならいいんだろうなと思いますが、いずれにしても、そういったことが事象として今ふえていますので、建物を含めてそれなりの対応ができるようなものを設置してもらわないと、なかなか観光立国の名前にそぐわないと思いますので、よろしくお願いします。

【回答】

おっしゃるとおりだと思いますので、施設整備につきましては、国土交通省さんとの連携が欠かせないものですので、そこは私どものほうからも主張すべきものは主張していきたいと思っております。

【質問】

クルーズでは、期間が長いものですから難しいかもしれませんが、バリに行ったときに、ガルーダが入管審査官を飛行機に乗せたんですね。到着前に飛行機に乗ったままで入国審査が全部終わってしまうんですね。ある意味、ものすごく合理的で、セキュリティという面では少し弱いかもしれませんが、いいなあと思ったんですが、日本ではあんなことは考えられないですか。

【回答】

なかなか難しいというのが率直なところでございます。まず権限行使の問題で、恐らくインドネシアの航空会社にインドネシアの政府の職員が乗ることですので、同じ事をやろうと思うと、日本の入国審査官は JAL か ANA しか乗れないことになってしまうので、まず外国の航空機に乗れないという前提がある。仮に日本の

航空機に乗ったとしても、今、審査で行っているような指紋の取得とか、あとパスポートはブラックリストとの照合もやっておりますので、それができなくなるおそれがあります。なかなか一足飛びにはいかないのかなというところがございますが、だからといって、私ども、迅速化のための方策に当然終わりはないわけですので、いろいろ知恵を絞りながら、それから、何かシステムとか合理化策もいろいろとあり得ると思っておりますので、そこは不断の検討をしていきたいと思っております。

【質問】

地方のことについて、クルーズの件もそうですが、特に地方においては外国船もそうですけれども、なかなか定期的に着くようなところではないところも多く最近着くようになって、出入国の面でも、定期的に人が来るわけではないのでというので、人の問題とかというのものもあるのではないかと思います。そういったところは、今、充足しているのかというか、迅速に対応できているのかということをお伺いしたかったのと、1番の関連で、空港のほうですけれども、先ほどご説明いただいたバイオカートというのを今後、地方も含めて拡大されていくのか。特に地方での空港の関連で、飛行機も常に定期便が飛んでいるところと飛んでいないところ、チャーター便なんかで入ってくる場所も出てきますので、その対応についてお伺いします。

【回答】

まず地方空港では、チャーター便として、ポッと一便だけ入ってくる場合と、プログラムチャーターとあって、ある程度、一定期間、一定程度入ってくる場合とございますが、いずれにつきましても、そういうお話が入国管理局も含め、空港での外国人お客様に対応する税関さんとか検疫さんのところにも同じように入ってくることとなりますが、私どもとして、人が足りないからとか、態勢が整わないからお断りするということは絶対にはないです。ですので、そういうお話をいただきましたら、速やかに職員を派遣する態勢を整えまして、きちんと対応させていただいております。

そういった応援態勢ですが、基本的には、地方空港を管轄しています出張所というものがございますが、その中で普通はやりくりするのですが、ただ、私どもの出張所は必ずしも大きいところばかりではございませんので、その場合には私どもは本局と呼んでおりますが、日本全国8ブロックごとに地方入国管理局というところがございまして、そこと地方空港を管轄する出張所の間で調整しまして、本局と言われるいわゆるタンク単位、ブロック単位の機関から職員を必要に応じて追加派遣するという形で対応させていただいておりますので、そこは基本的には大丈夫だとは思っております。

地方空港は、最近では以前に比べますと定期便の数がふえてきておりますので、そういう意味では私ども、地方空港を管轄する出張所そのものが体力を大分つけてきたということがございますので、地方の私どもの組織プラス、ブロック単位の組織も活用しながら、そこは対応しているということでございます。

あとは、バイオカートでございますが、現在、主要空港では、具体的に申し上げますと、今入っていますのは、成田、関空、中部、新千歳、福岡、那覇、ここまでは主要空港として入っておりますが、それだけではなくて、さらに例えば旭川とか富士山静岡空港とか、小松、広島、有明佐賀、宮崎、鹿児島、熊本、そこまでは展開しておりますので、かなり地方空港にもバイオカートの展開はしてまして、主要空港だけではなくて、地方空港にも迅速化策としての対応を私どもとしても力を入れているところでございます。今後、さらに広げるかどうかは、当然、予算事情にもよりますし、今後の入国者の状況なども見ながらそこは検討していきたいと思っております。

【質問】

国管理空港の場合、非管理空港の場合、いろいろなやり方があると思います。その辺は何かありますか。

【回答】

特にそこは考えずに。

【質問】

結果的にそこが管理空港だったり、そうでなかったりという。

【回答】 実際お客様の入りぐあいとか、空港施設の状況にもよりますので、地方空港になりますと、場所によっては非常に狭いところがございますので、審査の待ち時間に何か機械を置いて手順を前倒しする、つまり顔写真を撮ったり、指紋を採ったりという機械を置いてやるということができない地方空港もあり、そういうことも見ながらやっているところでございます。

余り具体例を出すといけないかもしれませんが、函館とか、御存じの方がいらっしゃるかわかりませんが、これはすみません。函館の悪口になってしまうのであれなんです、私も見に行ったんですが、非常に狭いですね。国内線のほうはちゃんとしているんですが、国際線は全然入って来ない前提で国際線用の部分をつくっていますので、正直申し上げて、汚い言葉で言うと廊下みたいな感じなんです。審査所は少し人がプールできるような広めのスペースに膨らんだ感じになるんですが、1本の太めの廊下ぐらいで、廊下の先に私どもの審査所がある。廊下のままと

感じ。これはとてもじゃないですが、機械を置いてやるということはおよそ不可能な感じがあります。そういった地方空港の状況を見ながら、ということになってしまいます。

【質問】

ちなみに羽田は。

【回答】

羽田はバイオカートという機器は入れていないのですが、これはいろいろと検討しましたが、羽田はまだバイオカートを入れる前の措置として、上陸審査ブースを見直して、ブースの数をたくさんふやしたんですね。そこに増員して人を張りつけているという状況になっております。

羽田の難しさというのは、夜中というか、深夜時間帯にかなりのお客様がいらっしゃるといふことがある。あとは日本人のお客が多い、そういうこともあって、バイオカートはあくまで外国人の方向けですし、バイオカートを操作するために民間企業の方に委託して操作補助をしていただいたりということがあって、夜中に操作補助ができるかということもあって、あとは日本人のお客が多いということもあり、まだ入れていないという状況です。

他方、先ほどお話しした日本人向けの顔認証という技術を使った自動化ゲートはむしろ羽田から先行して日本人のところに入れようかと思っています。先ほど、「本年度、先行して入れようかなと考えています」と申し上げたのは、実は羽田を念頭に置いているということです。まだ確定的なことではございません。

【要望】

羽田も世界四方の国の方がことしになってふえたし、今後の取り組みとしては、できることからやるということをお願いします。